ているものとされている。この一般説の検討と，更に木材が，乾燥するにつれて，含水率の低下につれておこる収縮の割合について，検討を加えることを目的とする。

3. 概　　要　　木材人工乾燥機と，電気定温乾燥器の両機器を使用前者においては間断作業につき毎朝の含水率と，収縮率を試験片において測定，後者は105°C恒温と，60°C恒温24時間乾燥の結果を測定した。

4. 成　　果　　実験の結果，サクラ材における収縮も多少の差はあれ，大略，一般の説通りの収縮の状態が観察される。又，含水率の低下に伴う収縮については，繊維飽和点時における収縮の度合が最大であることが認められこの結果，実察の乾燥においては欠点防止の意味からも木材変形等，発生時の，機内湿度状態を充分注意することがうなづける。

(11) モニン乳剤の防黴試験

1. 担当者　　工業技師　山田式典

2. 目　　的　　竹材に対する，防黴薬剤は多種類あるが効果，価格の点で使用目的も異なつてくる。今回は，フエニールマーキユリツク，ジオクチルスルホサクシネートを主剤とせる本剤について，竹材に対する防黴薬効試験を目的とする

3. 概　　要　　本県産モウソウチク，3年生の割竹と，ヒゴを薬液濃度0.0　0.1　0.2　0.3　0.5　1.0％液に浸漬後，Penicilum を接種，湿度90％温度25°Cにて培養，カビの発生具合によつて，その薬効を検した。15日間培養この結果0.2％以上の濃度については，カビの発生は認められなかつた。

4. 成　　果　　竹材に吸収せられた薬液の残効性については早急に，結論は出されぬとしても，現段階においては，充分使用に耐え得るものと考えられる。

(12) 成型椅子の研究および成型治具の研究

1. 担当者　　工業技師　永吉忠之
　　〃　　末吉光雄

2. 目　　的　　昭和34年度本場に設置された西独アドルフフリツツ社製の成型プレス機を利用して椅子の試作を試みた。此のプレス機は特殊な構造で従来雄型，雌型を必要としたがどちらか一方の型のみで成型可能である。

3. 概　　要　　1. 治　具

治具は熱の伝導性，耐久性その他の条件より，金属製であることが好ましいが，量産の場合はともかく，今回は木製のものを使用した桂材（含水率10％）を積層，および枠組として作成